

(一) 西安以西ハ興平ニ達シ(八日咸陽着ノ豫定)

(二) 渭河以北ハ龍陽鎮、田市鎮ノ線ニ達シ

(四) 陝南方面ハ商縣藍田ノ線ニ至リ學良部ハ七日迄ニ富平、

交口鎮ノ線及高陵、永壽、邠縣方面ニ撤退シ楊虎城ノ大

部ハ三原、洛川一帶及高陵附近ニ撤退セリ

二月一日撤退命令ニ服セサル孫銘九過激分子ハ叛亂ヲ起シタルモ翌日鎮壓セラレ同時ニ蒲城ノ第一〇師(師長檀自新)及鳳翔ノ第一〇六師(師長沈克)ハ西安トノ關係脫離ヲ聲明シ中央部隊ト聯絡スルニ至リ西安問題ハ一段落ヲ告ケタリ上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

902 昭和12年2月10日 在中國川越大使より 林外務大臣宛(電報)

中央軍の西安入城により西安事件は一段落との張群内話について

上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

テ三中全會ニ於テモ大シタ論議ヲ見シテ濟ム模様ナリト語レリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

3 国共合作問題

903 昭和12年1月14日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

西安での内戦発生を回避するため和平會議開催

催方中国共産党提案について

上 海 1月14日後発
本 省 1月14日夜着

第三五號

十四日ノ「ノース、チャイナ、デーリー、ニュース」ハ最

近西安ヨリ着滬セル者ノ談トシテ支那中央「ソビエト」政

府及共産黨中央執行委員會ヨリ南京及西安ノ諸要人宛西安

危機解消ノ爲南京ニ各派ノ代表ヲ網羅スル和平會議開催方

ヲ提唱セル通電(蔣介石釋放前ニ發セラレタルモ共産黨宣傳部ニテ公表セラレタルハ最近ナリ)ヲ掲載セルカ提案ノ内容左ノ通り

一、滻關ヲ境ト爲シ南京軍ハ陝西ニ進出セス西安抗日軍ハ陝

西ニ居残リ共ニ和平會議ノ解決ヲ俟ツヘシ

二、南京ハ擴大會議ヲ召集シ南京、西安ノ代表者ノ外各黨、

(二) 西安以西ハ興平ニ達シ(八日咸陽着ノ豫定)

(三) 渭河以北ハ龍陽鎮、田市鎮ノ線ニ達シ

(四) 陝南方面ハ商縣藍田ノ線ニ至リ學良部ハ七日迄ニ富平、

交口鎮ノ線及高陵、永壽、邠縣方面ニ撤退シ楊虎城ノ大

部ハ三原、洛川一帶及高陵附近ニ撤退セリ

二月一日撤退命令ニ服セサル孫銘九過激分子ハ叛亂ヲ起シタルモ翌日鎮壓セラレ同時ニ蒲城ノ第一〇師(師長檀自新)及鳳翔ノ第一〇六師(師長沈克)ハ西安トノ關係脫離ヲ聲明シ中央部隊ト聯絡スルニ至リ西安問題ハ一段落ヲ告ケタリ上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

902 昭和12年2月10日 在中國川越大使より 林外務大臣宛(電報)

中央軍の西安入城により西安事件は一段落との張群内話について

上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

テ三中全會ニ於テモ大シタ論議ヲ見シテ濟ム模様ナリト語レリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

第一〇四號

西安方面ノ狀況ニ關シ九日張群ハ本使ニ對シ中央軍宋希濂

部ハ八日西安ニ入城シテ其ノ守備ニ任シ西安行營主任顧祝

同ハ九日正午西安ニ到着シ隴海線沿線ハ全部中央軍ノ手ニ

歸シ學良、楊虎城ノ部隊ハ渭水北岸ニ撤退シ今後ハ東北軍ヲ甘肅ニ、楊虎城軍ヲ陝北ニ夫々移駐セシムレハ事件ノ解

決全ク完了スル次第ナルカ東北軍ノ一部(殊ニ劉多荃部)及

楊虎城ノ部下ニハ今猶中央反對ノ態度ニ出テツツアル分子

モアリ右移駐カ急速圓滿ニ行ハルヤ否ヤ疑問ナルモ西安

事件ハ之ヲ以テ一段落ヲ告ケタルモノト言フモ差支ナク從

テ三中全會ニ於テモ大シタ論議ヲ見シテ濟ム模様ナリト語レリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

南京 2月10日後発
本省 2月10日後着

1190

国共合作に関する中国共産党方針について
漢口 2月6日前発

本省 2月6日後着

国共合作に関する中国共産党方針について

武官より梅津陸軍次官、西尾參謀次長宛電報第

六四号

904 昭和12年2月6日 在漢口三浦總領事より 林外務大臣宛(電報)

西安事件後における中国共産党的活動に関する諜報について

付記 昭和12年1月6日付移牒、在漢口長(勇)駐在

内容左ノ通り

1191

第五四號

(付記)

漢 口 發
參謀本部 着

共產黨ノ活動ニ關シ其ノ後ノ諜報左ノ通り
一、周恩來ハ事變直後湯明松等ヲ上海ニ派遣シ文化救國會ノ組織ニ當ラシメ章乃器一味ノ釋放運動等ヲ行ハシメ居レリ

二、事變以來毛澤東ト共ニ共產黨ノ中心人物タル秦邦憲(往電第四〇號後段博古トアルハ秦ノ別名ナリ)ハ當地經由上海ニ赴キ前項文化救國會ノ成立ヲ共助シ居ル一方左翼作家等ト接近シ人民戰線ノ擴大ニ暗躍シツツアリ

三、在西安抗日聯軍西北臨時軍委會ハ後方攬亂工作ノ爲當地ニ派員セル一方(往電第四七號參照)四川ニ何明樵、許中論ヲ、湖南ニ游立干、高田石等ヲ派遣セリ

四、「ボロジン」及「ピトロフ」ハ庫倫ヲ經テ目下蘭州ニ來レルカ一月二十日毛澤東ハ「ボ」等ト會見シ爾後行動ヲ共ニシ居レリ(本項ハ「ツエントロソユーズ」ヨリ聞込ミタル情報ナリ)

支、上海大使、北平、在支各總領事、重慶、長沙へ轉電セリ

三、赤化等ノ從來ヨリ直ニ共產主義ヲ聯想セラルル文字ハ將來絕對ニ用ヒス
決定ス

四、南京政府ノ抗日政策ニ符節スルカ如キ「スローガン」ヲ同化セシム

五、上海、漢口ヲ二大重點トシ長江一帶ヲ主幹トスル人民戰線

リ

線即チ抗日戰線ノ擴大強化ヲ企圖ス

五、右實行ノ爲周恩來ハ全責任ヲ負ヒ數日前秦國憲ヲ西安ヨリ漢口ヲ經由上海ニ派遣セリ秦ハ上海ニ於テ文化救國會ヲ其中心機關トシテ人民戰線派ヲ糾合シテ大々的ニ抗日人民戰線ノ強化擴大ニ邁進スルコトナレリ
六、陝、甘方面ニアリテハ新疆省ト同様ニ軍閥ヲ赤化抱擁シテ之ヲ外蒙化ス之力爲下級幹部以下兵ニ到ル下層階級ニ赤化ノ重點ヲ指向シ上層者ヲ「ロボット」化シ其余勢ヲ抗日戰線ニ誘導シテ綏遠、察哈爾、山西ニ延伸スル如クス

~~~~~

905 昭和12年2月17日 在中國加藤大使館一等書記官より  
林外務大臣宛(電報)

三中全会の成り行き観測および蔣介石の容共  
姿勢などに關し王芳亭内話について

北平 2月17日後發  
本省 2月17日夜着

(<sup>1</sup>) 第六六號

共產黨駐漢辦事處ヨリ入手セシ情報ニ依レハ蘇聯國ノ「ピトロス」「ボロジン」兩名ハ「ソ」聯ノ密令ヲ受ケ極祕裡ニ莫斯科ヨリ飛行機ニテ烏里雅(支那名、外蒙ノ「ダクリン」)ヲ經由シ約一週間前ニ甘肅省蘭州ニ到着同地ニテ毛澤東ト會見シ今後ノ指導方針ヲ授ケタリ又之ニ次テ支那共产党ノ「ソ」聯代表王明モ亦莫斯科ヨリ飛行機ニテ西安ニ到リ共產黨ノ今後ノ工作方針ヲ示セリ之ヲ綜合スレハ左ノ如シ

モノニハアラサルモ國民黨今日迄ノ失政ハ本會議ヲ轉機

トシテ漸次黨勢ノ衰頽ヲ招來スヘシ

三、中央政府改組ノ聲ハ蔣介石ヲ牽制シ國民黨獨裁力ノ削減ヲ企圖スルモノナルモ蔣ノ健在スル以上其ノ實現ハ容易ナラサルヘシ

四、軍權統一案ハ中央力全國軍隊ノ統一ヲ企圖スルモノナルモ前述ノ通り各省有力者ノ出席セサル會議ニ於テ最後的決定ヲ見ルコトノ困難ナルハ勿論ナルカ唯之ニ依リ多少共右機運促進ノ效果ハ之ヲ收メ得ヘシ

五、西安事變當時莫斯科ノ指導下ニ朱德、毛澤東等ヲ代表シテ西安ニアリシ周恩來ハ必スシモ共產主義ヲ表面ニ高調セス蔣介石ヲ敵トセス其ノ討伐ヲ避ケ中央ト妥協シテ人民戰線ヲ結成シ抗日戰ニ向ハシメンツル根本方針ニ基キ張學良ニ勸告シテ蔣ヲ歸還セシタルモノナルカ事後事變ノ善後處置ニ當リ顧祝同ト張、楊兩軍代表者ノ希望一致セス交渉停頓ノ際共產黨ハ張、楊軍ヲ出シ拔キ西安附近ニ進出シアリ共產軍ヲ自發的ニ後退セシメ張、楊軍ヲシテ逆ニ中央側ノ條件ニ屈服スルノ已ムヲ得サルニ立至ラシメ而モ其ノ撤退前後蔣介石擁護ノ宣傳ヲ行ヒ蔣介石祭上策ヲ取リタルカ如キハ凡テ蔣ヲシテ共產軍討伐

六、日本ハ昨年支那中央側ニ對シ共同防共ヲ提議シタルモ支那側ハ自國內ノ共產黨ハ自力ニ依リ掃蕩スヘシテ應セサリシ行懸アル處實際問題トシテ共產黨ノ討伐ハ實行困難ナルヲ以テ支那共產黨ノ存在、其ノ抗日政策ハ日本ノ共同防共ノ要望ト相背馳スル次第ニテ中央政府トシテハ容共抗日ト背共親日トノ岐路ニ立テル儘目前ヲ糊塗スルノ外ナカルヘシ  
支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ  
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ~~~~~

906 昭和12年2月20日 在中國川越大使より 林外務大臣宛(電報)

### 三中全會の協議狀況および反共空氣につき秦 徳純内話について

南京 2月20日後発  
本省 2月20日夜着

(<sup>①</sup>) 第一二八號  
三中全會出席中ノ秦徳純ハ十九日夜清水ニ對シ左ノ通り内話セリ

一、自分(秦)ノ來寧ニ付テハ一部ヨリ危惧ノ念ヲ懷カレタル  
カ宋哲元ハ從來ノ主張タル反共及憲政實施ノ意見ヲ徹底セシムル爲ニハ三中全會ヲ利用スルコト然ルヘントノ意見ニテ代表ヲ派遣シタルモノニシテ自分モ極力右二點ヲ

強調スルニ努メ本提案ハ大會ノ議ニ上ルニ至ラサリシモ  
大會宣言中ニハ右提案ノ精神ヲ反映セシメ得ルモノト期待シ居レリ  
二、各方面ヨリノ提出ノ議案ノ中ニハ間々抗日ニ關スルモノアル模様ナルカ(宋慶齡、馮玉祥、李烈鈞其ノ他ノ連名ニテ提出セル抗日救亡ニ關スル提案等モアリ)右ハ大體

ヲ行ハシメサラントスル手段ニ外ナラス一方蔣介石ハ從來剿共ヲ希望シ來リタル手前モアリ正面ヨリ共產黨ノ要望ヲ受入ルルコトハ困難ナルカ曩ニ西安ニ於テ張學良ノ八項要求ヲ承認シタル關係及現ニ共產軍ハ陝、甘兩省ニ於テ其ノ勢力ヲ張リ且他ノ各地ニ於テ共產黨員及第三「インター」ノ策動ニ依リ對内和平運動ノ強化スル等ノアルアリ遂ニ公然ト容共政策ヲ採用セサル迄モ共產軍討伐ハ之ヲ行ヒ得サル破目ニ立至レルモノト考ヘラル  
六、日本ハ昨年支那中央側ニ對シ共同防共ヲ提議シタルモ支那側ハ自國內ノ共產黨ハ自力ニ依リ掃蕩スヘシテ應セサリシ行懸アル處實際問題トシテ共產黨ノ討伐ハ實行困難ナルヲ以テ支那共產黨ノ存在、其ノ抗日政策ハ日本ノ共同防共ノ要望ト相背馳スル次第ニテ中央政府トシテハ容共抗日ト背共親日トノ岐路ニ立テル儘目前ヲ糊塗スルノ外ナカルヘシ  
支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ  
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ~~~~~

(<sup>②</sup>)  
三、各地方當局者ハ各其ノ分ヲ守リ他ヨリノ侵略、壓迫ニ對シ極力之ヲ防衛シ自己管轄地方ノ繁榮ヲ企圖シ居ルコト  
カ大體一致セル氣持ナル模様ナリ

四、一般對日感情ヲ見ルニ責任ナキ一部ノ論者ハ別トシテ中央、地方各責任ノ地位ニアル者ハ相當慎重ナル態度ヲ持シ今回ノ大會ニ於テ特ニ惡化セル狀況見エス日本トノ關係ヲ惡化スルカ如キコトハ成ルヘク之ヲ控ヘント欲シ居ル様見受ケラレタリ

ニ廻リテ宋哲元ハ媚日。賣國ノ輩ナリ等ト惡口スル者モア

ル模様ナルカ未タ自分ニ面ト向ツテ非難攻撃セル者ナク

大體宋哲元ノ立場ニハ或程度同情ノ目ヲ以テ其ノ爲ス所

ヲ諒トシ居ル様見受ケラレ自分カ蔣介石ニ面會ノ際モ蔣  
ハ宋哲元ノ立場ニ於テアレ丈ヶ遣リ居ルニハ相當ノ苦心

ナルヘシトテ同情的ノロ吻ヲ洩ラシ居リタリ

六、今次ノ大會ニ於テハ聯俄容共等ノ論議出ツルヤノ噂アリ

タル爲自分モ其ノ立場上幾分緊張シテ會議ニ出席シタル

カ一般ノ空氣ヲ見ルニ右ハ全然問題トナラス反共ノ空氣

ハ強ク全體ヲ支配シ居リ自分等ノ心配ハ全ク杞憂ニ過キ

サリン次第ナリ

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

907 昭和12年2月21日 在漢口三浦總領事より 林外務大臣宛(電報)

蒋介石の容共姿勢に関する中国共産党側より

の諜報について

代表大會ニ於テ譴責セラレタリ(此ノ點ニ關シ秦ハ言及セサルモ唯紅軍指揮者カ勢力爭ヲ事トシ居ル點ヲ指摘シ居レリ)

三、西安ニ入レル顧祝同カ數次共產黨ト折衝ノ結果成レル密

約ニ依リ共產軍ノ移動ヲ見タルカ西安ニテハ共產軍ト蔣介石トノ妥協成レリトシ城内ニ左ノ如キ標語貼布セラレ居レリ

(一)擁護蔣介石反對汪精衛回國

(二)打倒偽國民黨推翻國民黨政府

(三)組織各種救國會

四 實行抗日運動

右共產黨側ノ情報トシテ御参考迄

支、上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

908 昭和12年2月22日 在中國川越大使より 林外務大臣宛(電報)

三中全会における赤化根絶決議等の議決について

別電 昭和十二年二月二十一日発在中国川越大使より  
林外務大臣宛第一三四號

## 第六五號

最近共產黨ノ蔣介石ニ對スル態度稍異ルモノアル一方官憲

ノ共產黨ニ對スル取締モ多少手心ヲ加ヘ居ルニアラスヤト

思ハル節アリ現ニ先般中共中央總書記秦邦憲(博古)來漢

シ武昌ニ於テ黨員ヲ集メテ講演ヲ爲シタル際ニモ(一月十

二日附機密第一二一號拙信參照)支那側官憲ハ殆ト之ヲ不

問ニ附シタル模様ナリシ處今般當地一共產黨員ノ語レル所

トシテ當館諜者ノ齋セル所左ノ通り

一、客年十二月ノ蔣介石西安拘留ハ全ク第三國際ノ指令ニ依

ルモノニシテ其ノ目的ハ蔣ノ施政方針ヲ改變セシメント

スルニアリタルカ蔣ハ周恩來ト會見ノ席上ニ於テ八箇條

ノ要求ヲ容レタリ(秦邦憲モ其ノ講演中ニ於テ蔣カ周恩

來ト三回會見シ聯合抗日ノ主張ニ贊成セリト述ヘ居レリ)

二、然ルニ中共中央ノ眞意ヲ了解セサル下級幹部ノ或者ハ暴

動ヲ起スニ至り掠奪殺人ヲ爲シ蔣介石ノ生命ヲモ奪ハントスル者アリ爲ニ世間ノ同情ヲ失ヒタルカ右ハ朱德、毛澤東等軍隊指揮者ノ不徳ノ致ス所ニシテ右兩名ハ第七次

右赤化根絶決議

南京 2月22日後發

本省 2月22日後發

第一三三號

三中全會第六大會ハ二十一日午後三時ヨリ開催セラレ主席

團提出ニ係ル別電第一三四號ノ赤化根絶決議案ノ外

(1)中央民衆訓練部部長周佛海ノ辭職ヲ許可シ陳公博ヲ後任

ニ推ス案

(2)中央宣傳部部長劉蘆隱ヲ罷メ後任ニ邵力子ヲ推ス案

(3)中央常務會議ハ主席胡漢民ノ死去並ニ副主席蔣介石ノ職

務繁劇ニ過クル爲今後主席制ヲ廢シ常務委員制ヲ復活ス

ル案

等ヲ議決セルカ尙閉會ヲ宣スルニ至ラス主席團ハ六時大會

散會後廿二日午前閉會式ヲ舉行スルト同時ニ大會宣言文

(三)民主主義精神ノ實行方針ヲ詳述セルモノナル由)ノ發表ヲ

爲スヘキ旨決定セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

(別電)

南京 2月22日後発  
本省 2月22日後着

第一三四號

現在共産黨ハ邊境ノ地ニ在リ中央ニ誠ヲ誓フヘシトノ説傳  
ヘラレ居ル處共產黨ノ過去ニ於ケル歴史ニ徵シ彼等力眞ニ  
改心シテ三民主義ニ服從シ國法軍令ヲ遵守シテ支那ノ良民  
トナルニアラサレハ中央ハ國家治安ノ維持、人民生命財產  
ノ保護上之ヲ放任シ置ク能ハス依テ中央ノ執ルヘキ當面ニ  
於ケル最低限度ノ便法ハ

(一) 主義相容レサル所謂紅軍及其ノ他類似ノ名目ヲ有スル武  
力ハ徹底的ニ取消スコト

(二) 所謂「ソビエート」政府及其ノ他國家統一ヲ破壊スル組  
織ヲ徹底的ニ取消スコト

(三) 民主義ト絕對ニ相容レサル赤化宣傳ヲ根本的ニ停止セ  
シムルコト

(四) 武裝暴動ノ手段ニ出テ社會民衆ノ不安ヲ招來スル階級鬭  
争ヲ根本的ニ停止セシムルコト

ノ四點ナルカ要スルニ獨立自主ノ國ニ於テハ斷シテ半國家、

抗敵救國ノ標語ハ明白ナル日本「エージェント」スラ之ヲ  
掲ケサルヲ得サル程一般的ノ認識ヲ得支那ノ如何ナル政治  
家モ公然之ニ反對シ得サル所ナリ然レトモ本件抗日問題ハ  
尙一般内政上ノ半面ヲモ有シ居リ國內ニ於ケル全反日勢力  
ノ一致協力及國內平和力要求セラレツツアル處此ノ統一人  
民戰線問題ハ近來國民大衆ニ大ナル人氣ト勢力トヲ得タル  
日本ノ手ニ躍ラサレタル西南派將領ノ南京ニ對スル反抗ノ  
失敗、西北支ニ於ケル幾多ノ紛爭ノ平和的解決、張學良、  
楊虎城ニ對シ所謂討伐軍ヲ派遣セントシタル親日派分子ノ  
企圖ノ失敗、支那紅軍ニ對スル戰爭ノ自然的中止等ハ何レ  
モ右ヲ立證スルモノニシテ支那國民ハ對日ノ爲ノ統一ヲ欲  
シ居ルモノナリ之ニ反シ日本帝國主義及事實ニ於テ抗日ヲ  
拒否シ對日讓歩ヲ繼續セントスル支那ノ一部政界分子ハ支  
那ノ内亂及統一的抗日勢力ノ破壞ヲ以テ主タル武器ト爲シ  
居レリ

(2) 索ニ内政問題ハ外交ト不可分ノ關係生シ黨指導者間ニ於ケ  
ル抗争モ此ノ意味ニ於テ内政問題ニ集中セラレツツアル次

第ニシテ三中全會ハ實ニ此ノ抗争ノ舞臺ニ外ナラス

親日派(汪兆銘、何應欽)ハ口ニ失地回復及「デモクラシー」

半民族ニシテ加之外力ニ附加スル團體ノ存在及民生ニ有害

ニシテ道德ヲ破壊スルカ如キ行爲アルヲ許サス吾人ハ先ツ  
支那民族固有ノ精神ト道德トヲ恢復シテ獨立自主ノ人格ヲ  
樹立シ得ハ支那固有ノ版圖ヲ復活シ歴史的光榮ヲ繼承シテ

三民主義ヲ實現シ得ヘキコトヲ知悉スヘク即チ赤化ノ根絶  
ハ支那ノ國家民族擁護ノ不易ノ大道ナリ

~~~~~

909 昭和12年2月22日 在ソ連邦重光(桑)大使より
林外務大臣宛(電報)

三中全会に関するソ連紙論調について

モスクワ 2月22日後発
本省 2月23日前着

第一三五號

(1) 二十二日ノ「イズヴエスチャ」ハ南京ニ於ケル三中全會ト
題シ左記要旨ノ論評ヲ掲ケタリ
全文ヲ日本ノ植民地化サントスル日本ノ飽クナキ侵略ハ支
那國民ノ解放運動ヲ促シ抗日統一人民戰線ニ轉廻シツツア
リ此ノ目醒メタル同國民ノ意思ハ全支及全極東ノ政治的狀
態ヲ決定スル重大ナル因子タリ

ヲ唱ヘ乍ラ紅軍トノ戰爭ヲ再開セシメ統一戰線ヲ破り以テ
抗日ノ可能ヲ失ハシメントスルモノニシテ之ニ反シ馮玉祥、
孫科等ハ對日讓歩ノ中止、國民黨制度ノ民主化及抗敵全勢
力ノ統一ヲ要求シ居レリ
國民黨内統一戰線派ノ地位ハ民衆ノ解放運動ノ成功ニ伴ヒ
益々強化シツツアルモ他面日本ノ手先モ亦廣ク且强大ナル
勢力ヲ有スルコトモ事實ナリ而シテ三中全會ニ於ケル抗爭
ノ結果ハ其ノ決議ノミニテ判斷スヘカラスシテ其ノ後ノ實
際ヲ攻究セサルヘカラス何レニシテモ右決議ノ如何ヲ問ハ
ス又日本ノ失望ニモ拘ラス支那ノ獨立ノ爲ノ統一及抗爭ノ
歴史的經過ヲ變更シ得ス又支那國民カ民族的自殺ニ傾クカ
如キコト決シテナカルヘシ
~~~~~

910 昭和12年2月23日 在中國川越大使より  
林外務大臣宛(電報)

三中全会の閉会宣言について

南京 2月23日前着  
本省 2月23日前着

三中全會ハ二十二日午前九時閉會式ヲ舉行シ大要左記要旨  
ノ宣言ヲ發表シ閉會セリ<sup>(1)</sup>

### 一、對外方針

支那ハ今日迄孫文ノ遺訓タル自救自強ノ途並ニ五全大會、  
二中全會等ニ於テ決定セル方針ニ基キ最大ノ忍耐ト決心  
トヲ以テ國家ノ生存ト民族復興ノ活路ヲ求メ和平全ク絕  
望ノ秋ニ至ラサレハ決シテ和平方針ヲ拠棄セサルモ萬一  
ノ場合ハ最後犠牲ノ大決心ヲ以テ外國トノ和平ニ對シ最  
大ノ努力ヲ爲シ來リタルカ二中全會以後ノ對日交渉モ全  
ク此ノ方針ニ基ケルモノニシテ過去數箇月間折衝屢決裂  
ニ瀕シタルモ終始從來ノ方針ヲ恪守シ來リタリ今後モ右  
方針ヲ繼承シ且之カ進行ニ努ムヘク若シ國家ノ蒙ムル損  
害カ吾人忍耐ノ程度ヲ越ユルコトアラハ決然抗戰ノ態度  
ニ出ツヘキモ右ハ單ナル自衛ノ手段ニ止マリ決シテ排他  
的意味ヲ含ムモノニアラス然レトモ吾人ノ和平希望カ完  
全ニ斷絶セラレサル以前ニ於テハ平等互惠及領土主權互  
尊ノ原則ニ依リ漸次解決ヲ策シ匪。僞。ヲシテ其ノ倚賴スル  
所ヲ喪ハシメ(二十一日上海華美晚報發表ノ宣言文ニハ  
冀東、察北ノ匪僞ヲシテ其ノ倚賴スル所ヲ喪ハシメ我華

北行政及主權ノ障害ヲ除去シ云々トナリ居レルカ本日ノ  
會議ニ於テ右ヲ削除發表セルモノト認メラル)以テ主權  
ノ完成ヲ期スヘシ然ルトキハ兩國懸案ハ未タ完全ニ落着  
セスト雖和平手段ヲ以テ紛糾ヲ解決シ得ヘキ可能性漸次  
現ルニ至ルヘシ是支那ノ舉國一致最短期間ニ貫徹ヲ期  
スヘキ所ナリ其ノ他一般ノ國際關係ハ國際和平ノ原則ニ  
基キ政治的協調及經濟合作ノ實現ニ努ムヘキハ勿論ナリ

### 二、對內方針

和平統一ハ數年以來全國民ノ一致守り來リタル信條ナル  
カ和平統一ト所謂内戰停止トハ廣狹ノ差コソアレ民族ノ  
力量ヲ集メ目前ノ國難ヲ排除シ民權主義ノ大道ニ踏入リ  
國際間ノ淘汰ヨリ免レントスル目的ニハ變リナク從テ同  
一主義ノ下ニ於テ單ナル意見ノ相違ニ依リ武力鬭爭ヲ爲  
スカ如キハ國家トシテ採ラサル所ナリ共產分子ハ最近共  
同禦侮ノ標語ヲ以テ呼懸ケ居ルモ過去ノ歴史ニ照ラシ國  
民革命ヲ破壞スルモノナレハ方法ノ如何ヲ論セス自力ヲ  
以テ赤禍ノ根絶ヲ爲ササルヘカラス  
其ノ他民衆ノ組織及訓練ハ國民黨ノ天職ナルモ國民大會  
開催ノ準備未タ整ハサルヲ以テ主管機關ヲ督促シ速ニ右

大會ノ召集ヲ爲シ憲法ヲ制定シ民權主義ノ基礎ヲ固ムル  
ニ努ムヘク又經濟建設モ國家統一ノ進行上重要ナル問題  
ナルカ右ハ孫總理ノ民生主義ニ基キ農工商業ノ發達ヲ計  
リ金融經濟ノ安定ヲ策スヘシ云々  
上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

911 昭和12年2月23日 在中國川越大使より  
林外務大臣宛(電報)

言論の自由および人材の育成を通じて党派の  
区別なく国内の一一致団結を図りたいとの蔣介  
石談話について

南 京 2月23日後発  
本 省 2月23日後着

第一三六號

(イ)赤化宣傳、國家ヲ危害シ地方治安ヲ擾亂スル言論  
(ロ)軍事外交ノ機密ヲ漏洩スルモノ  
(ハ)謠言ヲ捏造スルモノ  
ノ三種以外ハ極力言論ノ自由ヲ尊重シ特ニ制限スル意思  
ナシ今後ハ更ニ右ノ趣旨ニ基キ新聞及出版物管理便法ヲ  
改善スヘシ  
二現在支那カ必要トスル人材ハ克ク國家ノ文化建設ニ貢獻  
シ得ル専門家ナルカ中央年來ノ方針ハ人材ヲ育成シ各其  
ノ特徴ヲ發揮セシメントスルモノニシテ尚黨派ニ區別ナ  
シ但シ共產黨及所謂人民陣戰者ノ言フ如ク投機政客及統  
一ヲ破壞スル分子ヲシテ人材集中ノ名ノ下ニ獵官セシム  
ルコト能ハス  
三國家ニ反對シ社會ヲ破壞セントスル共產黨及反動分子等  
ノ如キ所謂政治犯ニ對シテハ自ラ制裁規定アリ但シ是等  
分子ニシテ眞ニ悔悟シ再ヒ國家ノ統一ヲ破壞スル行爲ヲ  
繰返サス且保證者アル者ニ對シテハ當然夫々特赦スヘシ  
要スルニ吾人ハ全國ノ意思及力量ヲ集中シ眞誠坦白一致  
團結シテ目前ノ困難除去ニ邁進スヘキナリ云々

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
一、中央ハ過去ニ於テ言論ノ自由ヲ制限シタルコトナク刑法  
出版法ニ規定アルモノハ別トシ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

述ヘ居レリ

912

昭和12年2月23日 在漢口三浦總領事より  
林外務大臣宛(電報)

### 抗日準備に關する中央政治委員会の訓令について

第六七號  
今般武漢行營ニ於テハ中央政治委員會ヨリ接到セル訓令ヲ  
所屬ノ軍隊ニ通令セルカ右通令中日支關係ニ言及シ最近民  
衆ノ抗日意識ハ裏面的ニ益々激烈ノ度ヲ加ヘツツアリ將來  
日支間ノ握手ノ如キハ不可能ナル處之ヲ軍事的ニ見レハ日  
本軍ノ最大動員數ハ五百萬ナルニ對シ我軍ハ之三十數倍ス

ヘク持久戰ヲ以テ日本軍ヲ奔命ニ疲ラシムレハ勝算ハ我ニ  
アリ且日本ハ蘇聯邦、英、米ノ敵ヲ控ヘ居ルニ付全力ヲ擧  
ケテ我國ヲ討ツコト能ハサルヲ以テ若シ犠牲的決心ヲ以テ  
抗日準備ヲ爲サハ日本ハ競々トシテ我國ヲ輕視セサルニ至  
ルヘシ外交關係紛糾ノ折柄各機關ニ通令シ各地要塞ヲ堅固  
ニシ在文日本(脫)ノ行動ヲ嚴ニ查察スルヲ要ストノ趣旨ヲ

913 昭和12年2月25日 在中國川越大使より  
藤外務大臣宛電報特情上海第一七号

### 国民政府中央と中国共産党との妥協説に對し

#### 今後の動向注意方意見具申

付記 昭和十二年三月五日着在中国川越大使より佐  
藤外務大臣宛電報特情上海第一七号  
國共妥協條件に關する三中全会宛中國共產黨  
通電全文

本省 2月23日夜着 漢口 2月23日後發

本省 2月25日夜着 上海 2月25日後發

#### 第九九號

廣東發大臣宛電報第七八號ノ如キ消息ハ當地ニ於テモ傳ヘ  
ラレ其ノ眞相ニ付テハ尙判然セサルモ(機密第一〇〇號往  
信參照)最近共產黨カ頻リニ妥協的空氣ヲ放送シツツアル  
ハ事實ナルカ如ク之ニ對シ支那人間ニモ種々ノ觀測行ハレ  
一部樂觀論者ハ右ハ共產黨カ共產主義ノ支那ニ適合セサル  
ヲ悟リ殊ニ西安事件ニ於テ一般ヨリ非難セラレ共產軍モ窮

地ニ陥リ將來ノ發展性之シキニ至レルヲ知リ漸次轉向セン  
トスル證據ナリト爲シ居ル處(過日陳立夫モ清水ニ對シ同  
様ノ觀測ヲ語レル由)之ニ反シテ右ハ全ク共產黨ノ欺瞞政  
策ニシテ若シ國民政府カ幾分ニテモ之ニ動カサレ共產黨排  
擊ノ鋒先鋒ルニ至ラハ對内對外共ニ將來由々敷キ問題ヲ發  
生スルニ至ルヘシトノ警戒的觀察ヲ爲シ居ル者モアリ

張熾章ハ二十一日館員ニ對シ右樂觀悲觀兩論共極端ニ過キ  
共產黨殊ニ共產軍カ大勢非ナリト見テ活路ヲ見出スニ焦慮  
シ居ルコトハ事實ナルモ一面共產黨一流ノ巧妙ナル潛入手  
段トシテ持掛け來リシモノトモ解セラレサルニアラス要ハ  
今後ノ事態ノ推移ヲ見ルニアラサレハ何レトモ判斷ヲ下シ  
難ク政府當局モウツカリ彼等ノ宣傳ニ乘セラルルコトハナ  
カルヘシト語レル趣ナルカ國民黨内ニモ種々ノ分子アリ所  
謂人民戰線派ヲ通シテ相當策動スルモノナキヲ保シ難キ狀  
況ナリトモ傳ヘラルルヲ以テ(過日于右任モ館員ニ對シ同  
様ノ口吻ヲ漏セル由)今後ノ動向注意ノ要アリト思惟セラ  
ル

五 中国政情  
支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

(付記)  
特情 上海第一七號  
本省 3月5日夜着 上海  
本省 3月5日後着  
四、對日抗戰ノ一切ノ準備工作ヲ迅速ニ完成ス  
五、人民ノ生活ヲ改善ス

若シ貴黨三中全會カ果シテ能ク毅然且決然トシテ以上ノ國策ヲ確定サルルナラハ我黨ハ團結禦侮ノ誠意ヲ表示スル爲

貴黨三中全會ニ對シ次ノ如キ保障ヲ爲スニ吝ナラス

一、全國何レノ地ニ於テモ國民政府ヲ顛覆スルカ如キ武裝暴

動ノ方針ヲ停止ス

二、「ソヴィエト」政府ヲ中華民國特區政府ト改名シ且紅軍

ヲ國民革命軍ト改名シ直接南京中央政府並ニ軍事委員會

ノ指導ヲ接受ス

三、特區政府ノ區域内ニ於テハ普通選舉ヲ行ヒ徹底的ノ民主

制度ヲ實施ス

四、地主ノ土地ヲ沒收スル政策ヲ中止シ且抗日民族統一戰線

ノ共同綱領ノ執行ヲ堅決ス

國難日ニ旺ナル時我等ノ國家ノ爲忠誠ナルハ天日ニ誓フ國家ノ爲諸先生カ我黨ノ誠忠ヲ容レラレ全國民族ノ救亡統一戰線ヲ實現セシメラレンコトヲ望ム我等ハ等シク黃帝ノ子孫タリ同シク中華民族ノ兒女タリ國難ニ當リ一切ノ成見ヲ拠棄シ親密ニ合作シ共ニ中華民族ノ最後的解放ノ偉業ニ赴カン茲ニ謹ンテ電達シテ明教ヲ待チ並ニ民族革命ノ敬禮ヲ致ス

二月十日

中國共產黨中央委員會

914 昭和12年2月25日 在中國加藤大使館一等書記官より

林外務大臣宛(電報)

三中全会にて赤化根絶決議を議決するも國民

政府中央は水面下で容共政策を採用する方針

との王芳亭内話について

北平 2月25日後発  
本省 2月25日夜着

第七八號

(<sup>(1)</sup>)二十三日王芳亭ノ西田顧問ニ對スル内話要領左ノ通り

一、三中全會宣言ニ於テハ支那赤化ノ根絶ヲ高調シアルモ支那ノ現狀ハ到底之ヲ實現シ得ルモノニアラス此ノ實狀ハ南京政府ノ夙ニ洞察シ居レル處ニシテ共產黨員ノ悔悟轉向者ハ之ヲ容認ストノ名目ニ依リ暗ニ容共ヲ採用セントスル傾向アリ從テ從來北支ニ於テ第三「インター」ノ指令ニ依リ國民黨ト對立ノ立場ニアリテ抗日工作ニ沒頭シツツアリシ共產黨員ハ轉向者トシテ國民黨員ト合作シ共

產黨ノ主張スル人民戰線ト國民黨ノ主張スル國民戰線トハ打ツテ一丸トナリ民族戰線ナル新名稱ノ下ニ中華民族ノ復興ヲ指導原理トシテ活動スヘク其ノ抗日工作ハ益々深刻化スルモノト豫想セラル

二、前述中央ノ裏面的容共策ノ現ハレト認ムヘキモノハ三中全會前周恩來ノ奉化飛行ナリ即チ周ハ三中全會開會ニ先立チ極祕裡ニ奉化ニ飛行シ蔣介石側ト今後ノ共產黨ノ處置ニ付打合ヲ遂ケタル模様ナルカ

右ハ共產黨力單獨抗日ヲ叫フモ結局中央ニ討伐セラルルヲ以テ寧ロ中央ト合體シテ抗日戰線ヲ構成シ蔣ト日本トノニシテ右協議ノ結果

(1)中央ハ甘、陝兩省ノ共產軍駐屯地ヲ指定シ中央ヨリ軍事訓練官ヲ派遣シテ共產軍ニ正式軍事訓練ヲ施ス

(2)該軍事訓練期間ハ六箇月トス

(3)中央ヨリ共產軍ニ對シ月額百八十萬元ノ軍費ヲ給ス

ノ條件ノ下ニ現ニ陝西、甘肅兩省内ニ於ケル約十萬ノ共產軍ヲ訓練シ其ノ成績如何ニ依リ中央軍ニ改編スルコトニ決定セリト傳ヘラル

915 昭和12年2月25日 在廣東中村總領事より

林外務大臣宛(電報)

國民政府中央と中國共產軍との間に妥協が成  
立したとの情報について

廣東 2月25日後発  
本省 2月25日夜着

第八三號  
往電第七八號ニ關シ

目下香港ニ滯在中ノ第三黨領袖章伯鈞(出所極祕)ノ内話ニ

依レハ共産軍ハ傳作義及閻錫山トノ間ニ夫々相互不可侵ノ取極ヲ結ヒ居ル一方東北軍楊虎城軍等ノ下級將士トハ利害關係ヲ一ニシ且友好的感情ヲ保持シ居ルヲ以テ中央側カ共

產軍ヲ討伐スルコト目下ハ思ヒモ寄ラス暫ク現在ノ占領地ニ駐屯スルコトヲ默認シテ妥協スルノ他ナク中央側ト共產軍トノ間何等カノ妥協成立シ居ルコト間違ナカルヘシトノ趣ナリ

支、上海大使、北平、在支各總領事、滿、臺灣外事課長ヘ轉電セリ

支、上海大使、北平、在支各總領事、滿、臺灣外事課長ヘ轉電セリ

916 昭和12年2月25日 在上海河相總領事より  
林外務大臣宛(電報)

### 中国共産黨の政略変更に関する米国記者情報について

第四六號 上海 2月25日後発  
本省 2月25日夜着

紐育<sup>(1)</sup>「タイムス」ノ「ビリンハム」ハ西安事變以後同地ニ入込ミタル唯一ノ外人記者ナルカ數日前歸滬シ昨二十四日

(二)土豪劣紳ノ土地財產ノ沒收ヲ廢止シ

(三)蘇聯邦式共產組織ヲ拋棄シ南京政府ノ下ニ特別地域ヲ劃定シ右地域内ニ於テハ勞農ノミナラス全人民ノ投票

權ヲ認ムル共和制ヲ施スヘク

(四)又爾後紅軍ノ名稱ヲ廢シ支那革命軍ト改稱シ軍費ノ補助ヲ受ケ南京政府軍事委員會ニ隸屬スルノ用意アリ

トノコトニテ「ビ」ハ蔣介石西南<sup>(2)</sup>脫出ノ前周トハ宋子文

宋美齡列席ニテ會見シ居リ右談話ヨリ推測シ其ノ際右趣旨ノ妥協行ハレタルモノト思フ尙周ノ語ル所ニ依ルモ共

產軍ハ外蒙トハ聯絡着キ居リ從テ現金及軍需品ニ事缺ク

コトナク土民ニ對スル物資ノ註文モ多ク代金支拂モ綺麗ニテ一般ニ歡迎サレ居リ今尙西安地方ニ殘留シ居レル四

名ノ外國人宣教師ノ如キモ共產軍トハ至極友好關係ニアリト述ヘ居タリ

(二)楊虎城ハ思想的ニハ赤トハ認メ難キモ「ピンク」位ノ處迄ハ行キ居リ之ハ同人第二夫人カ赤ニテ其ノ感化ニ依ルモノト思ハレ居ルカ全國共同一致抗日ハ余ノ「ライフウ

オーク」ナリト公然語リ居タル由尙「ビ」ノ撮影セル周恩來楊虎城寫眞郵報ス

本官來訪種々西南事情ニ付述ヘタルカ就中左記何等御参考迄

一、問題ノ人周恩來ハ嘗テ獨露ニ學ヒタルコトアリ自分ニ對シ共產主義ノ說法ハセカリシカ彼トノ談話中思想的ニモ仲々曉リシタル所見受ケラレタリ眉目秀麗聰智ニ富ミ魅力アル男ニテ彼ノ共產黨内ニ於ケル聲望ハ隆々トシテ南京部内ニ於ケル蔣介石ト相比肩スルノ慨<sup>(3)</sup>アリ又毛澤東ヲ除キテハ黨内切テノ權力者ナリ周ノ語ル所ニ據レハ共產黨ハ黨ノ名稱モ目的モ決シテ變更セサル由ナルカ少シク

政略ヲ變ヘ曩ニ南京政府ニ對シ内戰反對共同抗日

(二)言論出版結社ノ自由

(三)凡ユル政派、軍、組合、商工團體、自由職業團ノ代表ヲ網羅シ南京政府ノ案ヲ更ニ擴大シタル既定ノ國民議會ノ開設

(四)抗日國防ノ充實

(五)國民大衆生活ノ安定

ノ五要求ヲ提示シ居レルカ右カ容レラルレハ

(一)南京政府ニ對シ反抗ヲ止メ

917 昭和12年3月1日 在中國川越大使より  
林外務大臣宛(電報)

### 赤化根絶決議遵守を条件に國民政府中央は中國共產黨を討伐せずとの孫科談話について

支、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ

第一〇四號 上海 3月1日後発  
本省 3月1日夜着

孫科ハ廿七日當地新聞記者ニ對シ

(一)赤禍根絶ニ付テハ三中全會ニ於テ四項目ノ辦法ヲ決定セルカ(支發閣下宛電報第一三三號別電參照)共匪カ若シ右ヲ遵守スル決心ヲ有シ之ヲ全國民ノ前ニ事實ヲ以テ表現

スルニ於テハ中央ハ討伐スルコトナシ

(二)日本現内閣ノ對支政策ハ一貫セル傳統政策ヨリ一步モ出

テサルモノニシテ傳ヘラルル緩和說ノ如キハ一時的ノモノニ過キス

ト語リタル趣ナリ

尙右(二)ニ關シ廿八日ノ大公報ハ林内閣ハ對支問題中容易ナ

ル案件ヨリ解決シ行キ以テ國交ノ轉換ヲ圖ルト稱スルモ單ナル技術的改變ニ依ラスシテ觀念的革新ヲ期スルコト最肝要ニシテ若シ今後共廣田三原則ニ執着スルニ於テハ日支國交ノ將來ハ失望ノ外ナシトノ短評ヲ加ヘ居レリ  
支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

918 昭和12年3月1日 在ニューヨーク井上總領事代理より  
林外務大臣宛

国民政府中央と中国共産軍との妥協空氣に關する米国紙報道振りについて

普通第九〇號 昭和十二年三月一日 (3月30日接受)

總領事代理 井上 益太郎〔印〕  
在紐育

外務大臣 林 鋒十郎殿

南京政府ト紅軍ニ關スル新聞記事報告ノ件

一、本件ニ關シテハ一月中旬拙電及普通第三一號拙信ヲ以テ報告申進セシ次第アル處二月廿日南京發「ステール」特電(廿日附紐育「タイムス」掲載)ハ「支那ハ紅軍ト和解

スヘシ」ト題シ南京政府「スパークスマン」ハ紅軍ニシテ中央軍ノ監督ニ服シ蘇維埃地帶ヲ解消シ階級鬪爭ヲ中止セハ之ト妥協スヘキヲ聲明シタル旨ヲ報道シ廿一日上海發「キーン」特電(廿一日附紐育「ヘラルド、トリビューン」掲載)ハ「南京ハ日本ヲ除外シテ紅軍ト協議スヘシ」ト題シ廿一日國民黨中央執行委員會ハ紅軍カ一定ノ條件ヲ容レサレハ剿匪ヲ繼續スヘキヲ決議セルカ右條件ハ紅軍側ヨリ先週同委員會ニ提出セル提議ト殆ント同様ナルヲ以テ容共的氣運濃厚ナル旨報道シ居リ又廿三日南京發「クリスチヤン、サイエンス、モニター」特派員電報(廿三日附「クリスチヤン、サイエンス、モニター」掲載)モ發表サレタル三中全會決議ハ共產黨ノ對日宣戰要求ヲ無視セルモ西安事變以來ノ蔣ト共產黨トノ接近ハ顯著ナルコト及國民黨ハ一九二七年ノ容共政策ノ再現ヲ豫見シ得ルカ如キ四條件ヲ提議セル旨ヲ報シ居レリ

二、西安十九日發「ビリングガム」特電(廿日附紐育「タイムス」掲載)ハ周恩來トノ西安ニ於ケル「インタービュー」ノ模様ヲ報シ居リ要旨左ノ如シ

(イ)周ハ「紅軍ハ(一)一切ノ内亂中止ト抗日統一戰(二)言論、

出版、集會ノ自由ト政治犯人ノ釋放(三)黨派、軍隊、労働組合、商工業組合其ノ他總ユル職業ノ代表者ヲ會スル國民議會ノ設置(四)即時國防準備ノ強化(五)支那大眾ノ生活程度ノ改善ノ五ヶ條ヲ南京政府ニ要求シソノ對價

トシテ(一)南京政府ニ對スル反抗ノ中止(二)富裕階級ノ土地財產沒收ノ中止(三)紅軍ハ蘇維埃組織ヲ廢シ南京政府ノ管轄ノ下ニ一定地域ニ定住スルコトノ三點ヲ實行スル用意アル旨南京政府ニ通告セリ而シテ紅軍ハ蘇維埃地帶ヲ改組シテ勞農ノミナラス一般人ニモ投票權ヲ與ヘテ眞ノ民主制政府ヲ組織シ紅軍ノ名稱ヲ支那革命軍ト改メ現在ノ組織ト幹部ハソノ儘維持スルモ中央政府軍事委員會ノ命令ニ服スルノ用意アリ云々」ト述ヘ南京政府トノ間ノ妥協成立ヲ樂觀シ居レリ

(ロ)「モスコ一」ト紅軍トノ關係ニ關シテ周ハ外蒙ニ據り充分ノ連絡ヲナシヲルヲ述ヘタルカ之西安地方ニ於ケル紅軍カ通貨、軍需品ヲ豐富ニ所有スルヲ説明スルニ足ルヘシ云々

三、三月一日南京發「ステール」特電(三月一日紐育「タイムス」掲載)ハ HARRY DUNHAM ナル米人ノ最近ニ於

919 昭和12年3月6日 在中國川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)  
往電第九九號ニ關シ  
國民黨及共產黨ノ妥協問題ニ關スル情報左ノ如シ  
一、共產黨側ハ三中全會ノ共產黨絕滅ニ關スル決議ニ對シ直ニ受諾ノ用意アル旨表明シタル爲國民黨代表張沖ハ目下陝西ニ在リ共產黨側ト妥協折衝中ナルカ其ノ難關ハ共產軍ノ改編及地盤問題ニテ南京側ハ共產黨側ノ誠意ヲ疑ヒ慎重ナル態度ヲ持シ居ルヲ以テ妥協成立迄ニハ尙相當ノ



然從來通りノ軍旗徽章ヲ使用シ居リ福建、貴州、四川等  
ノ邊境ニ於テ今尙一、三千宛ノ共產軍蟠踞シ居レル地域  
六、七箇所ニ及ヘル處是等各地ノ部隊トハ無線電信ニテ  
聯絡シツツアルモ大シタ勢力ニアラス  
三、中央側ハ現ニ是等共產軍ニ對シ討伐ヲ停止シ居ル外  
四、蔣介石直系部隊ト同様最良ノ給與ヲ與ヘ補助金ヲ支給シ  
ツツアリ  
五、尙周思來ハ外蒙トハ相互利益ヲ基礎トシ良好ナル關係ヲ  
持續シ居ル旨語リタリ趣ナリ  
支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

922 昭和12年4月22日 在上海吉岡總領事代理より  
佐藤外務大臣宛(電報)

中國共產黨の赤化根絶決議承諾に関する胡霖  
内話について

上海 4月22日後発  
本省 4月22日夜着

第一六二號  
二十二日胡霖ノ八谷ニ對スル内話左ノ通

923 昭和12年4月28日 在漢口三浦總領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

、中央ハ共產黨ノ活動ニ對シテハ充分警戒中ニテ十八日以來行ハレ居ル當地公共租界ノ電車罷業カ共產黨ノ中央牽制策ナリトノ噂アルモ右ハ共產黨トハ無關係ニテ國民黨部カ絲ヲ引キ居ルモノナリ  
支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

#### 国共合作に関する中國共產黨の立場闡明について

漢口 4月28日後発  
本省 4月28日夜着

第一二〇號

當地有力共產黨員ヨリ得タル情報ニ依レハ中共中央局ハ湘鄂贛省委ニ對シ今次國共合作ニ關シ左ノ如ク中國共產黨ノ態度及今後ノ動向ヲ闡明セル趣ナリ  
一、我等ハ國民黨ニ投降セルニアラスシテ之ト合作セルモノナリ  
二、國民黨中ノ有力抗日分子及歐米派ト提携シ親日派ヲ打倒ス  
三、國民黨トノ合作ハ目下ノ環境ニ處シ最善ノ策ナルモ今後尚祕密裡ニ存(續)ヲ計リ活動ヲ繼續ス  
四、無黨無派ノ立場ヲ以テ國民黨ノ一黨專制ニ反対シ民族統一戰線ヲ運用シテ民衆ヲ吸收シ最後ニ國民黨ノ地位ヲ奪取ス

924 昭和12年6月22日 在上海岡本總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中國共產黨の特異性保持をめぐる周恩来と国民政府中央との合作協議の状況について

上海 6月22日後発  
本省 6月22日夜着

第四一〇號  
國共妥協問題ニ關シ最近西安ヨリ歸來セル共產黨關係者ノ二十一日館員ニ内話セル所在ノ如シ

共產黨側ハ「ソヴィエツト」政權ヲ民主々義政權ニ改メ之ヲ南京政府ニ依存セシメツツ其ノ特異性ヲ保持スルコト(即チ特區政府ト爲ス)ヲ根本方針トシ周恩來主トシテ交渉ニ當リ居レルカ南京側ハ右特異性ノ放棄迄モ要求シ居ルヲ以テ交渉成立ノ見込ハ今ノ處立タサル模様ナリ左レト陝西ニ於テハ妥協ハ事實上行ハレ居リ紅軍及中央軍兵士ノ往來ハ自由ニシテ紅軍兵士ハ帽章ヲ青天白日章ニ替ヘレハ西安ニ入り得又中央側人士ノ「ソ」區内旅行モ自由ニシテ郵便物モ到着シ居リ交通部ハ近ク延。安ニ電報局ヲ開設スル苦ナリ

支、北平、天津、漢口へ轉電セリ

~~~~~

共産黨嫌疑ヲ以テ香港政廳側ヨリ警告ヲ受クル所アリ今回

退社ノ已ムナキニ至リ暫時荊ニ於テ社長ニ再任スルコトト

ナレルカ同人香港在住ノ共産黨員ヨリノ聞込ニ依レバ共

產軍首領毛澤東ハ國共合作ノ爲最近南京ニ到レル處從來國

民政府部内ニテハ毛ニ對シ頗ル惡印象ヲ有シ居レルニ拘ラ

ス一度毛ト接觸セル要人ハ其ノ博識ト穩健ナル意見ニ感服

シ殊ニ其ノ態度頗ル謙讓ナル點ハ周恩來力部内ニ多數ノ知

己ヲ有シ合作問題ニ活動シテ博シ得タル人氣ニモ優リ信望

ヲ集メ居ル由ナリ

支 在支各總領事、北平へ轉電シ香港へ暗送セリ

第二八二號

荊嗣祐ノ内話ニ依レハ(出所極秘)香港珠江日報社長ハ最近

広 東 7月19日後發
本 省 7月19日夜着

~~~~~

925 昭和12年7月19日

在廣東中村總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

国共合作のため南京を訪問した毛沢東の人気

振りについて

## 六 中国幣制改革（米中銀協定を含む）

926

昭和11年1月1日

在中國有吉大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

在中国本邦銀行の所有銀処分は諸外国の銀行

と同時に行うべき旨意見具申

上 海 1月1日後發

本 省 1月1日夜着

第一號  
<sup>(1)</sup>客年往電第一一七二號二關シ

目下ノ銀價ニテハ右往電ノ案モ左程不條理ニアラス(例ヘハ輸出稅及「モーラル、サポート」當時ノ平衡稅ヲ拂ヒテ

銀ヲ輸出スルモ大シテ利益ニアラス)外國銀行ハ大体右往電ノ案ヲ受諾スルモノト思ハルニ付日本銀行ノミ取殘サレテ却テ退引キナラヌ形トナル惧モアリ(假令我方ノミ頑張ルモ銀價ノ趨勢ニ鑑ミ外國側ヨリ特ニ有利ナル條件ヲ得ルコトハ至難ナルヘキノミナラス銀價更ニ下落シテ外國銀

行ヨリ不利ナル條件ヲ受諾スル外ナキニ至ルコトモナラハ極メテ不体裁ナリ)又本件所有銀ヲ別段ノ政治的目的ニ利用セントスルモ左シタル效果無カルヘキ次第ニモアリ結局銀行家ノ自由處分ニ委ス御方針ナルニ於テハ此ノ際外國銀行ト同時ニ處分スルコト寧ロ可ナリト存セラル

尙此ノ際銀ヲ引渡スハ幣制及借款問題ニ對スル我方ノ態度ヲ變更シタルヤノ印象ヲ與フル惧アリトノ御懸念ニテモアラハ當局談ノ發表其ノ他ノ適當ナル方法ニテ之ヲ防クモ可ナルヘシ

就テハ何分ノ御方針至急御決定ノ上七日頃以前迄ニ大體ノ御意嚮ニテモ御回電ヲ請フ

銀行家モ卅一日會合ノ際略一致シテ此ノ際處分スルヲ可トストノ意見ニテ(尤モ先般本社ヨリ當分靜觀方訓令アリタル關係上本社ニ更ニセツ突クヲ差控ヘ居ル向モアリ)至東京關係方面ニテ方針決定方ヲ希望シ居レリ

在支各總領事、北平、廈門へ轉電セリ